

<過去1週間の動き>

(10月4日～10月10日)

USD/TRY: 18.4500～18.5980

TRY/JPY: 7.76～7.84 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、対ドルで、18.58を中心とした小動きを支配的とした。7日までに史上最安値を18.5980まで更新した事実を鑑みて、軟調気味の膠着と言うことはできたが、過去3ヵ月余りの一方的なリラ安推移と比較すれば、「横ばい」と見ることもできた。並行して対円、対ユーロでは、5日以降、堅調推移を続けており、対ドルでのリラ安も、並行したドル高の裏返しという要素の方が大きかった。3日観察された全般的なドルの下押し→4日以降の一方的なドル堅調は、米長期金利低下→上昇と概ね一致したものの、米長期金利動向を決めた要因は定かでなかった。確かに、米9月雇用統計が、史上最低水準(3.5%)に並ぶ失業率の低下など、強い内容だったのは事実だが、同統計発表は7日で、5日以降の米金利上昇を説明する要因とは言えなかった。他にも、米連銀高官の発言に反応した側面はあっただろうが、同銀主流派は、これまでに物価抑制を最優先する姿勢を明確に示してきており、彼らの鷹派発言にいちいち反応したという解説も、ドル高に対する後講釈の感が拭えなかった。他に、トルコ固有の要因も連日のように聞かれ、或いは、為替差損補填付リラ建預金の受け入れ期間の(2023年末までへの)延長(4日)が一時的なリラ買いを誘った可能性は考えられなくもなかったが、スワップ協定(総額20億ドル)に基づき、韓国中銀が7.8億ドル相当(の韓国ウォン)をトルコ中銀に送金したなどと言った報(6日)はほぼ無視された。他にも様々な材料は散見されたが、内容的な交錯もあり(後述)、通貨市場も、どう反応したものか、判断をつけられないでいたように見えた。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/10	7:00	失業率	8月	9.6%		10.0%

<向こう1週間の見通し>

(10月11日～10月17日)

USD/TRY: 18.550～18.700

TRY/JPY: 7.75～7.90

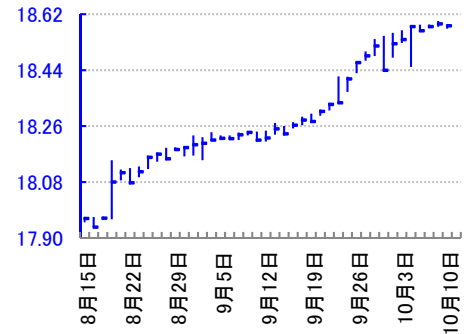
向こう1週間のトルコ・リラ相場は、引き続き軟調推移を予想。トルコ向け対内直接/証券投資が、近年、他国に例を見ない高インフレ=低実質金利と、頻繁に変わる規制(実質的な資本規制)によって概ね枯渇した現状で、経常赤字(リラ売り実需>リラ買い実需)がリラ為替に与える影響力は、恒常的で一方的なリラ売り圧力でしかない。トルコ貿易赤字の足元拡大基調は、その状況に変化がないことを示唆するし、11日発表予定のトルコ8月经常収支は、その基調を改めて確認する可能性が高いものと見込む。エルドアン大統領は、6日、プラハで開催された欧州政治共同体(EPC)への参加は「EU加盟手続きを代替するものではない」などと述べた。同大統領は、先月20日に、いつまで待っても進捗がないEU加盟に見切りをつける格好で、上海経済機構(SCO)加盟を推進する姿勢を再確認したばかりで、その後2週間余りでEU加盟に秋波を送る同大統領の真意は測りかねた。また、エルドアン大統領は、この間も、「金利は日々、毎週、毎月、低下を続ける」と、政策金利引き下げが続くとの主張を繰り返した(8日)。資金を調達し易く(お金を借り易く)することで、投資や消費を刺激しようという経済拡大策の一環だが、一方で、トルコ中銀が7日発表した地場金融機関の流動性調査は、正反対の現実を示していた。同調査によると、第4四半期に向け、トルコ金融機関は、全方面的(注1)な資金需要低下や貸出姿勢の悪化(緊縮化)を予想していたのだ。他にも、EUが、トルコに対し、対口制裁の徹底を求めた(6日)のに先駆けて、トルコ国営ガス会社(BOTAS)が、ロシアに対し、天然ガス輸入代金の支払い猶予(注2)を求める姿勢が観測されたり(4日)と、トルコを取り巻く環境は一筋縄では読めない交錯を見せている。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
10/11	7:00	経常収支(USD)	8月	-3.15bn		4.01bn
10/12	7:00	鉱工業生産(前年比)	8月	+2.7%		+2.4%
	7:00	小売売上高(前年比)	8月			+2.0%
10/14	7:00	期待インフレ率(翌12ヵ月)	10月			+36.74%
10/17	8:00	財政収支(TRY)	9月			+3.6bn

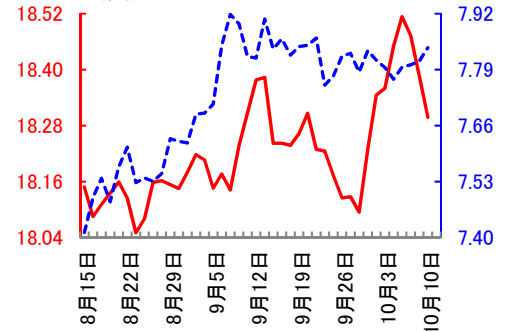
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRYの推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



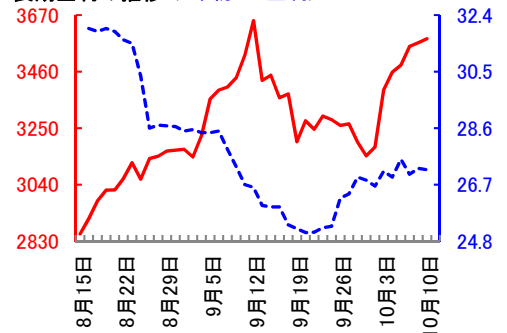
バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)

リラ/円の推移 (ロンドン17:00)



株式市場の推移 (ISE 100種指数)

長期金利の推移 (5年物OIS金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		12.00%
成長率(GDP/前年比)	Q2	+7.6%
失業率	8月	9.6%
消費者物価(前年比)	9月	+83.45%
鉱工業生産(前年比)	7月	+2.4%
小売売上高(前年比)	7月	+2.0%
貿易収支(USD)	8月	-11.19bn
経常収支(USD)	7月	-4.01bn

(注1) 企業向け貸出/自動車ローン/住宅ローン/その他消費者ローンなど

(注2) ハンガリーのナギ経済開発相によると、同様の支払い遅延要請で、今冬分のガス輸入代金支払いを3年先まで先延ばしすることができたという

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。